

スライド教材

被爆前の長崎の日常

当時の学生の暮らし

(※今の中・高校生の年齢)

ポイント

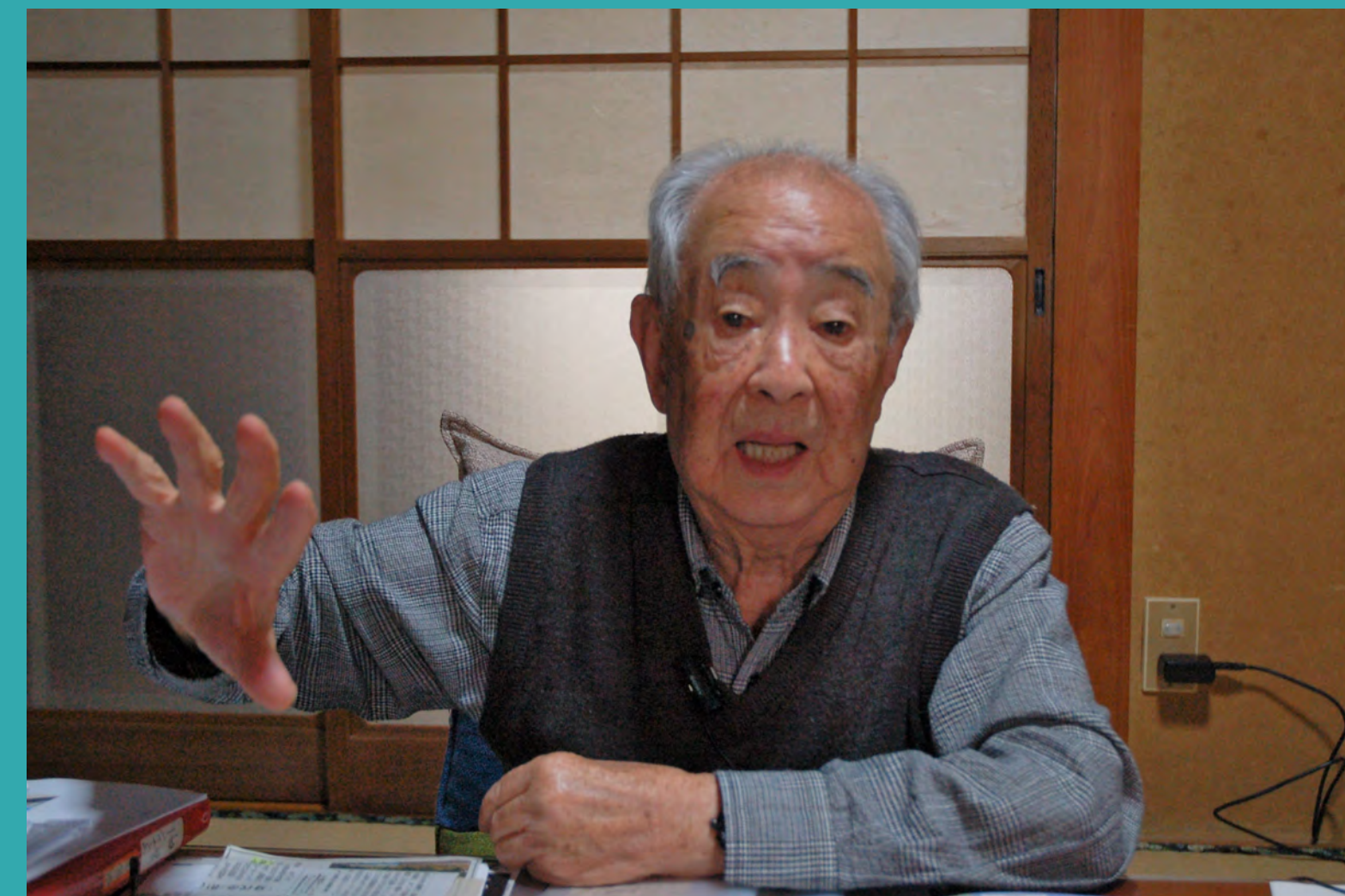
- ・ 被爆前の長崎の暮らしを知る
- ・ 当時の学生生活の様子を知る
- ・ 戦争の進行と日常の変化を知る
- ・ 今と当時の暮らしの共通点を探す

使用にあたって

- ・ 教育目的であれば誰でも自由にご利用いただけます
- ・ 教育目的の使用に限り、改変加工を許可します
- ・ 使用の際にはクレジットを記入してください
- ・ 営利目的の使用はお控えください

じょうざき ひさみち

城崎尚道さん



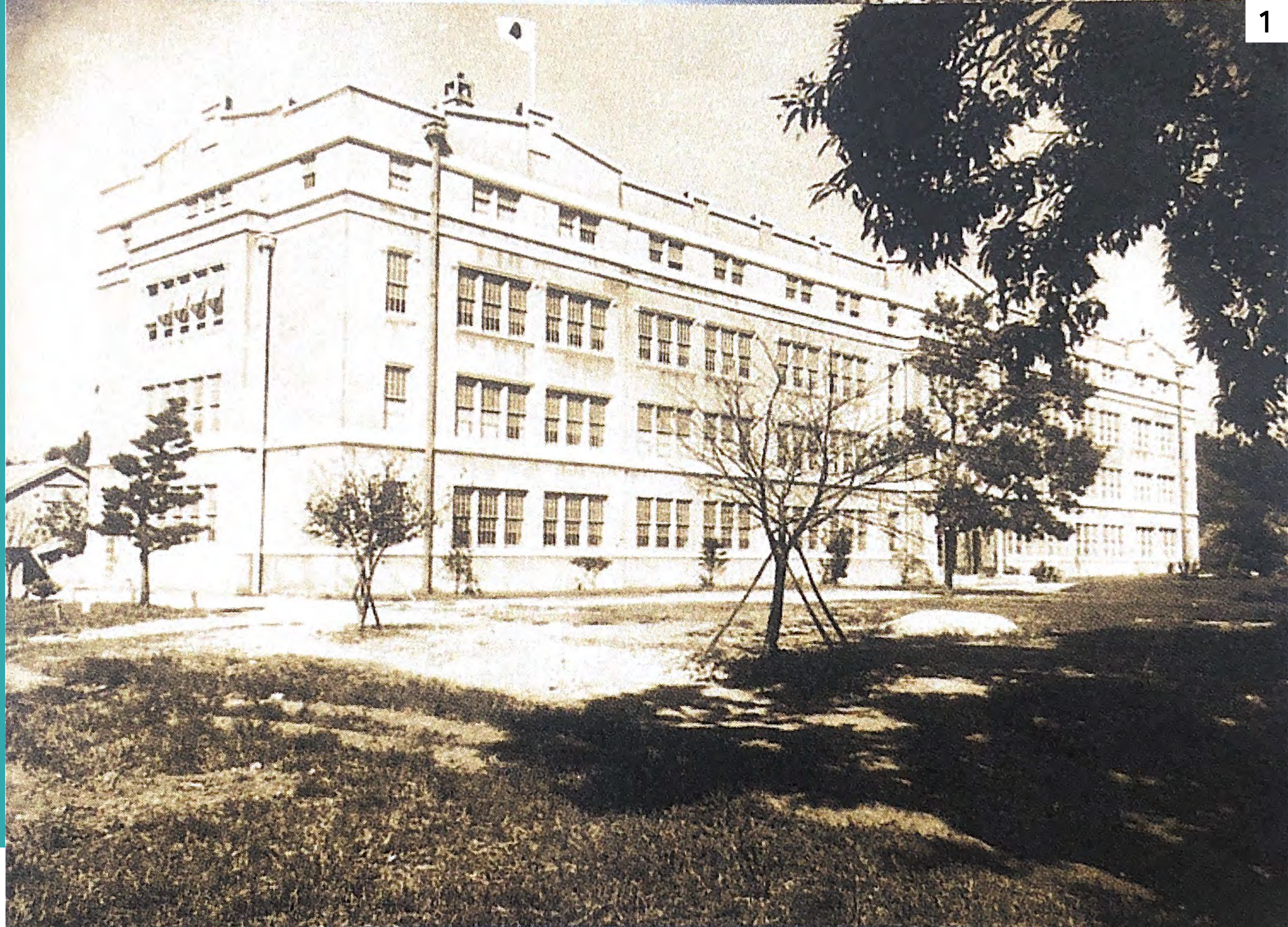
1928年生まれ。17歳のとき、爆心地から約1.2キロの茂里町の三菱兵器工場で被爆した。当時は鎮西学院中学校の付設科2年生。勤労動員として三菱兵器茂里町工場第三仕上げ工場で、魚雷の組立作業やハンダメッキ、部品工作などの仕事をしていた。

私は昭和15（1940）年、旧制鎮西学院中学校に入学しました。兄弟そろって鎮西に入れたのは、親類が配属将校をしていたからです。

当時の旧制中学校は5年制だったため、今の中学生から高校生の年齢に当たる。鎮西学院は基督教ミッションスクール。1881（明治14）年に創立し、写真の場所に1930（昭和5）年に移転した。

被爆前校舎現在の長崎市宝栄町

提供：学校法人 鎮西学院



学校には路面電車で通いました。

電車が諏訪神社の前を通る時、

どの学校の生徒も車内で帽子を取っておじぎし、

大人たちも頭を下げました。

城崎さんは長崎市の片淵町で育った。家の周りには畑が広がり、借家の大家さんも農家だった。おすそ分けでもらった作物で、母がよく赤かぶ漬けを作っていた。その後、一家は鎮西学院に近い、稲佐町に引っ越した。

クラスメイトとの写真 右端真ん中が城崎さん

提供：学校法人 鎮西学院



学校では軍事教練がありました。生徒には歩兵用の銃が渡されましたが、背が低かった私には銃身が長かったので、銃身の短い騎兵用の銃を代わりに使いました。



戦時の兵力を強化するため、1925（大正14）年から中学以上の男子学校には陸軍将校が配属され、軍事教練（軍事教育）を担当した。校舎の地下室に武器庫があった。「三八式」と呼ばれた歩兵銃、小柄な城崎さんが渡された騎兵用の銃のほか、軽機関銃や重機関銃なども備え、教練で使われた。

クラスメイトとの写真

※ 城崎さん以外の方のお名前を隠すため写真に加工をしています。

提供：学校法人 鎮西学院



中学校では勉強そっちのけで、対米兵の軍事教練をしていました。
今はゴルフ場になっている広い場所で散開して、走って、

『伏せー！』と命令がかかると

バタッと地面に伏せて、銃を構えました

毎朝、生徒全員が講堂に集まり、お祈りをしました。
そのときには雑念なく素直に「アーメン」と唱えました。
でも、教室に戻るときには、
友だちと『アーメン、ソーメン』なんて言っていました。

鎮西学院の校史によると、戦時中は軍部
などからキリスト教教育に圧力がかけら
れた。次第に激しくなり、1944（昭
和19）年、礼拝は中止に追い込まれた。

昭和19年ごろ 学校内道場
右前で寝転んでいるのが城崎さん



文具店でカードを買い、表に英単語、裏に日本語で意味を書いて勉強しました。
『鬼畜米英』の風潮が強まったときも、私は英語を学んでいたこともあり、そう思いませんでした。

『英語は敵性語』と言われた時代だが、鎮西学院では戦時中も英語の授業があった。城崎さんが入学したころ、宣教師として来日した米国人も教壇に立っていたが、日米関係の悪化で帰国を余儀なくされた。

昭和19年ごろ 学校内教室

右から3番目に映るのが城崎さん



学校ではグライダーの訓練もありました。

生徒が機首に取り付けたゴムを引っ張り、校庭で飛ばしました。

私は背が低かったので乗りませんでした。

生徒が交代で練習しました。

グライダーは飛行機の基礎を学ばせるため軍から渡された。
校庭は元は陸軍の訓練場で広かったとは言え、外に飛び出さないように気づかい、1メートルくらい上がると下降させたという。これに乗って基礎を学んだ後、優秀で体格の良い生徒が陸軍飛行学校や予科練（海軍飛行予科練習生）にすすんだ。

昭和18年ごろ 学校校舎前

グライダーの前でポーズを取る城崎さんの友だち

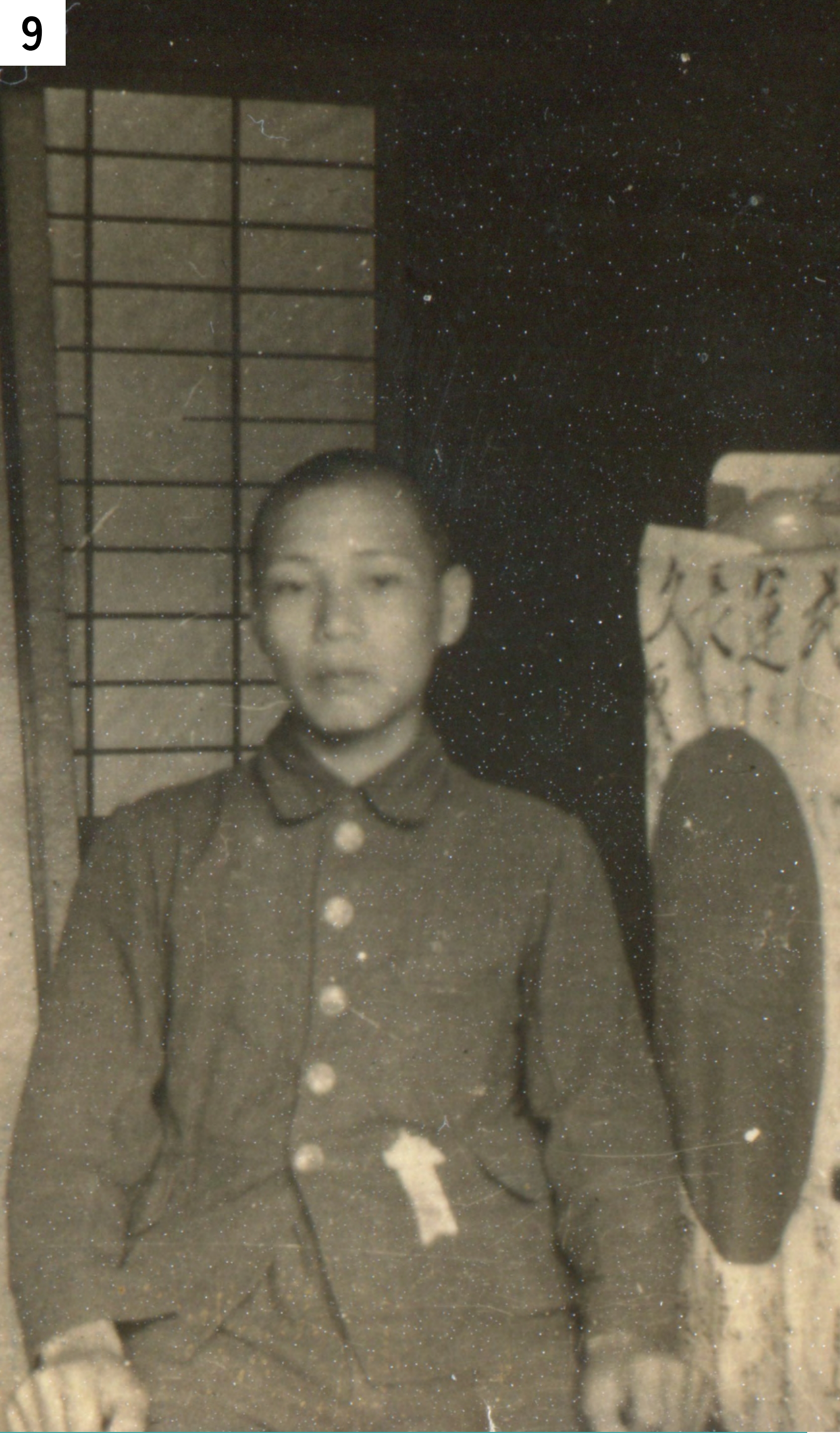




真珠湾攻撃の日（1941年12月8日）
のラジオ放送は覚えています。
『日本が勝った』と聞いて、
やっぱりうれしかった。

城崎さんの在学期間は戦争が激しさを増す時期。鎮西学院に入学した1940（昭和15）年、日本は日中戦争の最中だった。翌年12月には、米国ハワイの真珠湾を攻撃するなどして太平洋戦争に突入した。

昭和18～19年ごろ
予科練へ進んだ城崎さんの友人たち



4、5年生のころ、予科練（海軍飛行予科練習生）や
陸軍特別幹部候補生に志願する学生が出てきました。
友だちも入隊し、日の丸の寄せ書きを贈って見送りました。



鎮西学院では、1943（昭和18）年
ごろから軍が学校を訪れ、志願者を募っ
た。入隊した生徒の中には、特攻で命
を落とした者もいた。

昭和18～19年ごろ

予科練に入隊する友だちの送別会

昭和17（1942）年頃まではのんびりしていて、
昼休みも遊んでいました。

ところが翌年からは学徒動員となり、

学校には行かずに兵器工場で働きました。

私の仕事は主に魚雷部品の電気メッキでした。

このころ、働き盛りの男性が次々に徴兵されたため、各地の工場や鉱山、農村では深刻な労働力不足に陥った。これを補うため、生徒らが勉強を止めて送り込まれ、働かされた。城崎さんは三菱長崎兵器茂里町工場の第3仕上げ工場で働いた。

被爆後 三菱長崎造船所幸町・茂里町工場一帯

提供：長崎原爆資料館





原爆が炸裂したときは工場内にいました。

明かり取りの窓から青白い光がパァッと入ってきて

『高圧線がショートしたかな』と思ったら、

次の瞬間には建物がガァッと崩れました。

コンクリートの塊が頭や背中に当たりましたが、

大きなけがはせずに済みました。

原爆によって工場は全壊半焼し、多くの工員や動員学徒らが被爆死した。鎮西学院中学校では校内や工場などの動員先で職員・生徒約140人が亡くなった。

被爆後 三菱長崎兵器製作所茂里町工場仕上工場内部

提供：長崎原爆資料館